

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援みなのは波多江		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 10日		令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 3日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・適切な支援の提供、特に理学療法士・作業療法士等が活動や遊びの中で体の動きの観察、トレーニングを実施していること	・個別療育や小集団療育の内容が共有できるように行っています。	職員間で活動内容を確認し各自の学びにつなげられるよう、ケース会議の場を設けています。
2	・利用児一人ひとりのコミュニケーションを大切にしたり関わりを行っていること	・1対1の関りを大切に個別の担当制を取り入れています。	引き続き職員間で連携をとりながら、一人ひとりの関りを大切にしたり支援を行なっています。
3	・相談しやすい環境を提供していること	・保護者様からのお子様に関する相談はもちろん、職員間でも報告・連絡・相談は密に行い、話しやすい環境を意識しています。	・伝えやすい・話しやすい環境を心がけ、これまでの支援や対応をより丁寧に行なっていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・各種取り組み、避難訓練等保護者様のご意見の中にわからないが多く見られた。	・ホームページ等の周知が出来ていないことが考えられる。	・保護者様に活動内容が周知できるようホームページのURLを毎月の予定表などの工夫を行い掲載された際、紹介をしていく。
2	・玄関までの階段であるため、雨の日や雪などの日には不安を感じる。	利用児の手が届く場所に手すりがない。	・雨や雪の日には、裏のエレベーターを使用し対応していく。
3	・施設内を見ていただく機会が少ないこと	・親子分離での療育のため、見ていただく機会が少ない ・面談等も別室で行うことが多い	・施設内を見ていただく機会が作れるように検討していく